

昭和56・57年度の降積雪について

滋賀県森林センター

植谷俊治

1. はじめに

56豪雪（昭和55年12月29日～56年1月23日にかけて県北部に大雪をもたらした）は、滋賀県下の森林に倒伏、埋雪による大きな被害を与えました。このため、それ以前にも何度か大きな雪害をうけていましたが、改めて雪の恐ろしさを思い知らされました。ところが、引き続き56年12月中旬には、小規模ではありますが冠雪害が発生し、2年度続けて打撃をうけました。57年度冬季は全般に積雪量が少なく、被害と呼べるものは発生しませんでした。

県下の森林被害（雪害）をまとめた資料は数少なく、被害程度等について詳細に知ることは難しいですが、不十分ながら近年の雪害の概要は表一のとおりであります。北陸地方の森林被害と比較すると、本県の被害は小規模ではありますが、森林所有者に与える打撃は劣るものではありません。本県での本格的な雪害関係の調査研究は新しく、今後引き続き諸データの収集につとめる必要があります。ここでは、昭和56・57年度の降積雪について取りまとめました。

表一 近年の森林被害（雪害）

被害時期	被害区域面積(ha)	被害額(千円)	被害区域
昭和43年1月～2月	3,805	427,500	? ※
昭和48年12月～49年2月	8,657	1,174,964	湖北、湖西、湖東北部、湖東、湖南 ※
昭和50年1月	3,250	801,900	湖北 ※
昭和52年1月～2月	7,989	1,128,873	湖北、湖西、湖東北部 ※
昭和56年1月	17,621	1,683,676	湖北、湖西、湖東北部、湖東
昭和56年12月	3,694	1,654,979	湖西、湖東北部、湖東

(注) ※は滋賀県災害誌、続編滋賀県災害誌による。

2. 昭和56・57年度の降積雪

県下の積雪分布の型は、その時の気象状況によって相違があり、北雪、中雪、混合型および南雪の4つの型に分類できるが、北雪、中雪の回数が多く、混合型、南雪は少ない。したがって、県下の雪害は、北陸地方に接した北部地域に集中している。

次に昭和37～57年度の最深積雪は表一のとおりである。彦根地方気象台による積雪の観測地点は少なく、また山間地のデータはほとんどないところから、昭和56年度より積雪分布図を作成

表-2 積雪の分布型

分布型	多雪域
北雪	中心が伊吹山地にあって、南は関ヶ原付近、西は野坂山地にのびる
中雪	中心が比良山地と鈴鹿山脈にあって、中部が多い
混合型	伊吹山地と比良山地にあらわれる
南雪	南部にあらわれる

するため、最深積雪指示計（高橋式）を県北部の積雪地帯に 100カ所設置し、継続測定している。なお56年度から県町村会においても、一部气象台と重複しているカ所もあるが、43カ所で積雪を調査している。

昭和37年度以降の、このような積雪状況の中で、56・57年度の積雪は次のとおりであった。

(1) 56年度の降積雪

56年度冬季についてまず特筆すべきは、56年12月中旬に、県の北西部および東部に冠雪害が発生したことである。12月13日～15日にかけて、北西部や東部を中心に60cmを越す大雪が降り、山間部では

100cm以上の積雪となった。この降雪は12月中旬としては例年にないものであり



図-1 雪害の発生する山地

表-3 最深積雪 (cm)

地点	年度	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	平均
彦根		44	20	30	40	53	20	26	57	43	5	29	30	30	18	59	50	12	40	35	35	29	34
柳ヶ瀬										125	18	100	185	180	165	250	165	33	145	350	89	107	147
山東												42	60	95	38	125	61	6	40	155	50	20	63
虎姫															40	110	65	11	41	40	40	30	47
近江八幡		17	13	9	15	45	30	18	18	9	0	16	23	30	23	30	12	16	15	15	40	15	19
蒲生															25	18	14	23	18	8	37	13	20
今津		95	40	46	64	62	69	32	70	67	8	59	88	67	37	125	63	12	75	87	62	31	60
北小松		16	32	35	43	60	33	15	40	35	8	25	85	62	28	30	19	11	48	22	63	35	35
土山		20	12	5	17	30	27	23	14	21	5	14	18	33	22	14	22	31	19	8	52	25	21
大津		7	1	2	7	10	5	15	5	13	1	10	2	22	5	8	10	10	10	3	15	1	8
信楽		19	7	12	5	17	31	12	7	13	1	4	7	25	6	11	9	9	17	8	15	2	11

(注) 彦根地方气象台資料

加えて湿雪であったため、県としては大きな冠雪害をうけた。ただ、これまで大きな雪害時には必ずといってよいほど被害区域に含まれていた湖北地方では、積雪が少なく、とくに雪害の発生はみなかった。57年に入って大きな降雪が3回ほど来たが、異常なものではなかった。

図-2に、56年度冬季の最深積雪線図を示したが、冬季全体をみても、中部地域に降積雪の多い「中雪」タイプの年度であったといえそうである。なお、表として掲げはしなかったが、県土木事務所の積雪資料から、昭和48～57年度の最深積雪を比較すると、北部は平均よりも相当に少なく、逆に中部はやや多いという傾向であった。

(2) 57年度の降積雪

57年度冬季の特徴は、県全体として相当に積雪が少なかったことが上げられる。表-3からも、37年度以降の平均と比べて、相当に少なく、53年以来の少雪であった。

なお降積雪の分布型としては、図-3より、冬季全体をみても「北雪」タイプの年度であった。

彦根气象台や県土木事務所の資料等から判断して、38豪雪を記録した37年度冬季以後での少雪の年度は、38、43、46、53および57年度であり、少雪は2年度続かないようである。

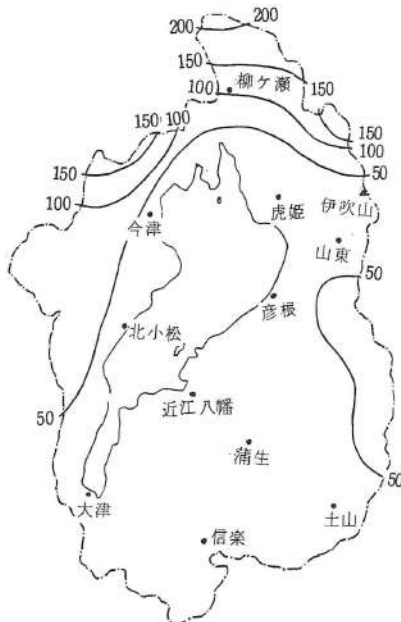


図-3 昭和57年度冬季の最深積雪線図 (cm)

ろであり、少しでも雪害研究の先進県に追いつきたいと思います。

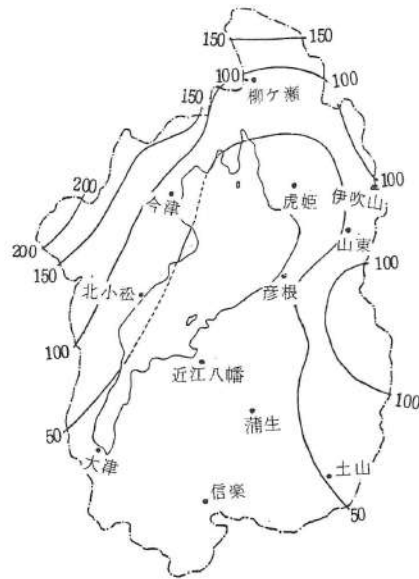


図-2 昭和56年度冬季の最深積雪線図 (cm)

3. 最後に

私自身、雪と造林について、まだまだ知識も浅く、今回は不十分ながら、いろいろな本や資料を参考に書かせていただきました。的をえていないことや、問題点も多いかと思えます。今後、ますます努力していきたいと思えます。滋賀県も、58年度から始まった、普及情報システム化事業「人工林雪害の育林的防除技術の確立に関する基礎調査」の調査研究に加わり、諸データの収集につとめているところ